

科目名	リハビリテーション心理学特論		副題		
担当者	宮森 孝史				
開講期	前期	単位数	2単位	配当年次	1・2年
授業の概要	リハビリテーション心理学は、障害や慢性疾患の研究、予後、治療に対して、心理学的知見と理解を適応するに特化した心理学の専門分野であり、ここでの公認心理師には、関係する要因（生物学的、心理的、社会的、職業的、政治的要因）すべてを考慮に入れて、個人が最適な身体的、心理的、対人的機能を働かすことができるように援助することが求められる。具体的には、身体障害、知的障害及び精神障害、高次脳機能障害について概説でき、障害者（児）、高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できるようになることである。				
授業のねらい・到達目標	1. リハビリテーション心理学は心理学の諸領域が相互に関連しあって成り立っている学際領域である。これまで学んできた心理学の諸領域の関連性が説明できるようになる。 2. 障害の心理社会的意味を説明することができる。				
授業の方法・授業計画					
1	リハビリテーションとリハビリテーション心理学の位置づけ				
2	心理学におけるリハビリテーション心理学の位置づけ				
3	リハビリテーション心理学と心理学的リハビリテーション				
4	リハビリテーション心理学各論①：脊髄損傷・肢節切断のリハビリテーション心理学				
5	リハビリテーション心理学各論②：慢性疼痛のリハビリテーション心理学				
6	リハビリテーション心理学各論③：リハビリテーションにおける神経心理学的実践				
7	リハビリテーション心理学各論④：高次脳機能障害のリハビリテーション				
8	リハビリテーション心理学各論⑤：発達障害のリハビリテーション心理学				
9	リハビリテーション心理学各論⑥：認知リハビリテーションの考え方				
10	リハビリテーション心理学各論⑦：精神障害のリハビリテーション心理学				
11	リハビリテーション心理学各論⑧：リハビリテーション心理学から見た認知症				
12	リハビリテーション心理学各論⑨：障害受容について				
13	職業的リハビリテーションにおけるリハビリテーション心理学の役割と貢献				
14	ポジティブ心理学からリハビリテーション心理学への貢献				
15	リハビリテーション・チームにおける心理師の位置づけと適正				
期末					
授業に関する連絡	毎回、最後の10分で授業についての質問、コメントを求める。他の受講生との共有化をはかり、理解を深めることとする。				
評価方法及び評価基準	講義の区切れ目で、レポートを提出する（50％）。講義の最後には講義全体を振り返ってのレポートを提出する（50％）。それらを基に総合的に評価する。				
事前・事後学習の内容	講義の展開に合わせ適宜、参考文献を紹介するので、できるかぎりそれらを事前に読んで授業に望むこと。また、講義で学んだこと（各論）がリハビリテーションの考え方（思想）にどのように発展するのかを常に考えながら事後学習に努めること。				
履修上の注意	全講義に出席のこと。				
テキスト	以下の参考文献の中から、各回に関連のある章を取上げ授業を進める。				
参考文献	Frank, RG., Rosenthal, M., & Capla, B., "Handbook of Rehabilitation Psychology, 2nd ed." APA, 2010. 千野直一（監）・福原彰夫・才藤栄一（編）「現代リハビリテーション医学（改訂第4版）」、金剛出版、2017年 金田嘉清（著）「リハビリテーション（放送大学教材）改訂新版」、放送大学教育振興会、2013年				